

「応援します!! あなたの農業」

# あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 25 号 平成 20 年 3 月

発行元 福島市中町 8 番 2 号  
財団法人福島県農業振興公社  
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

## “手代木秀一さん福島県知事賞受賞”

～平成19年度福島県農村青年会議～

平成20年2月13日(水)～14日(木)の2日間、郡山市熱海町「清稜山倶楽部」において、県内の農業青年や関係者が出席し、平成19年度福島県農村



プロジェクト発表会

青年会議が開催されました。この会議は、福島県農業青年クラブ連絡協議会と財団法人福島県農業振興公社との共催で毎年開催しているもので、プロジェクト成果等の発表をするプロジェクト発表と農業に対する自分の考え方等を発表する意見発表に分かれ、農業青年の日頃の研究成果等が発表されました。

発表者の中から、プロジェクト発表部門においてはあいづ農業青



知事賞を受賞した手代木さん

年クラブの手代木秀一さんの「トルコギキョウ抑制制作型における品質向上プロジェクト」と題した有利販売による経営改善のための技術上の課題に取り組んだ発表が最優秀賞(福島県知事賞)、意見発表の部門では須賀川4Hクラブの柳沼克典さんが「e c oの時代」と題した食料問題を取り上げた力強い主張が評価され優秀賞(福島県農業振興公社理事長賞)を受賞され、両名は今年秋に開催される東北大会(山形県)へ出場することになりました。

また、2日目のリーダー研修会では、宮城県丸森町在住の椎名千恵子氏から「自然から学びながら」と題し、自然農法を始めたきっかけや、暮らしの中で大切にしていることが語られ、



リーダー研修会

人間は自然に生かされているということを確認する機会となり、大変有意義な研修会となりました。

水田経営所得安定対策見直しのポイント

平成20年2月20日付け実施要領の改正について

今回の改正は、旧品目横断的経営安定対策に対する生産現場からの様々な意見を踏まえて、対策に対する誤解を解消して地域の実態に即した見直しをしたとのことです。(福島農政事務所談)

見直しの内容は、次のとおりです。

1. 名称等の変更

対策の名称を、「水田経営所得安定対策」に改めました。

このほか、関係する用語も併せて見直し。

ゲタ	麦・大豆直接支払
緑ゲタ	固定払
ナラシ	収入減少補てん
経理の一元化	共同販売経理
黄ゲタ	成績払

2. 加入者拡大に向けた面積要件の見直し

面積要件の原則や特例に該当しない方でも、「地域水田農業ビジョン」に位置づけられている地域

の担い手の方は、市町村の判断(市町村特認制度)で、加入出来るようになります。

3. 交付金支払前倒し、申請手続の簡素化

担い手の皆さんの経営資金繰りに配慮して、麦・大豆直接支払の交付金支払を前倒し。

申請書類を見やすく改正、2年目以降はあらかじめ必要事項は印字、変更がない添付書類は不要。

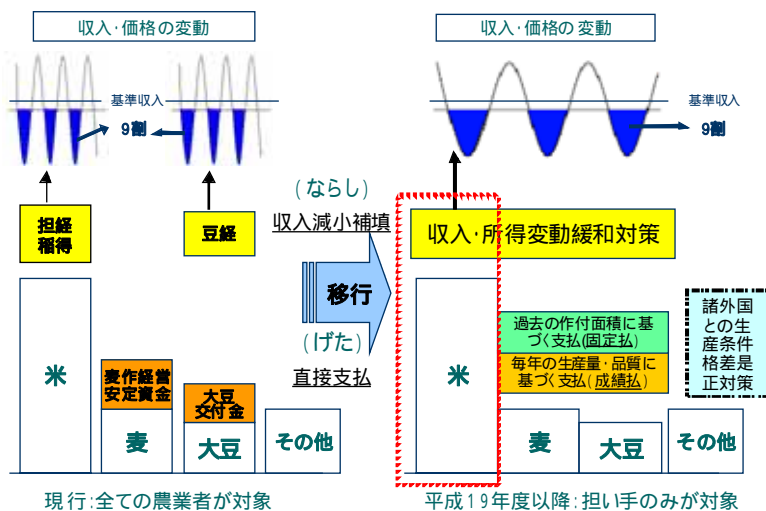
加入申請時期の集中(4月~6月)

4. 集落営農組織の不安解消

5年以内の法人化については、5年の範囲で延長が可能。

共同出役型の集落営農組織など主たる従事者の特定が難しい場合、候補者の人数をさだめ基本構想の所得額を目標にするなどの要件緩和。

新しい経営安定対策への移行のイメージ



【素朴な疑問?】

Q1 未加入者の減収補てんは?

A1 稲作構造改革促進交付金制度に加入することができます。

Q2 未加入者は産地づくり交付金は受けられないの?

A2 生産調整を実施し集荷円滑化対策の生産者拠出金を納入すれば、交付金を受けられます。

詳しくは福島農政事務所にお問い合わせ下さい。

今月のコラム

冬になるとあちこちの川や沼に毎年シベリアから白鳥が飛んできますが、私の住む松川町には、川幅わずか50m程の水原川があります。平日は孫を連れてお年寄りや近くの



水原川の白鳥

幼稚園児たちが、休日ともなれば食パンの袋を片手に家族連れがたくさんやって来ます。



## 27名の方が当育成センター・ブ・スへ来場

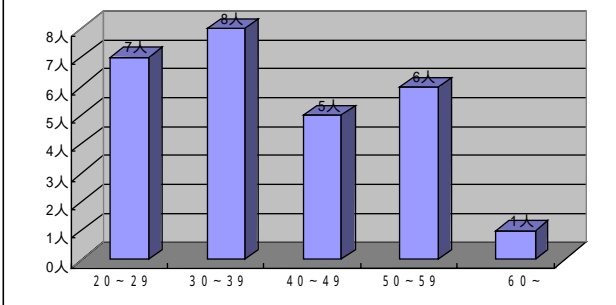
～新・農業人フェア新規就農相談会～

青年農業者等育成センターでは、都市住民の食に対する関心等から就農を希望する方が増えてきていることを踏まえ、全国新規就農相談センター（全国農業会議所）が東京都で開催する新・農業人フェア新規就農相談会へ毎年ブ・スを出展しています。

今年度は、3回の出展を予定しており、既に2回出展しましたが、当育成センター・ブ・スへの相談者は27名でした。

相談者を年齢別で見ると、20代7名、30代8名、40代5名、50代6名となっており、20代から50代まで、ほぼ同数の方から相談がありました。（グラフ1参照）

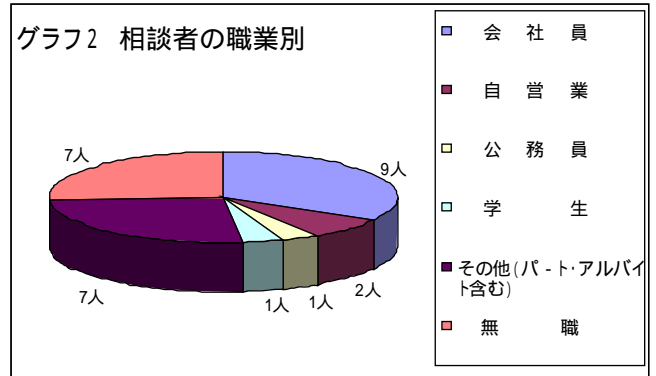
グラフ1 相談者の年齢別



職業別では、会社員が9名と一番多く、無職、その他（パート、アルバイトを含む）もそれぞれ7名となっています。（グラフ2参照）希望作目を見ると野菜（施設含む）が7名、果樹6名、稲作5名の順（グラフ3参照）となっています。

相談内容は、半数以上の方が本格的な農業経営を行いたいと希望しているものの具体的には、こ

グラフ2 相談者の職業別

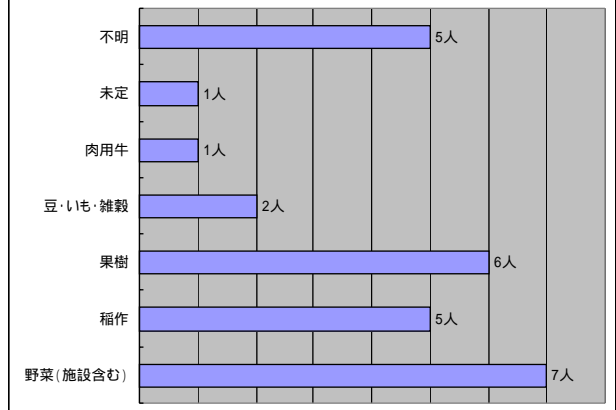


れから検討したいといった方が多くいました。

また、本格的な農業経営でなく田舎暮らしをするために就農を希望したいとの相談者も一定の割合を占めていました。

当育成センターでは、これら都市住民の新規就農希望者の相談業務を実施するため、今後も継続してブ・スを出展し新規就農者の確保に努めます。

グラフ3 相談者の希望作目別



とかく白鳥の飛来地には、カモもたくさんいて、白鳥に餌をなかなか与えられませんが、ここでは手からパンを食べてくれます。

最近は寒くないように小屋を作ったり、餌やり場も整備されており小さな子供でも安心して餌を

あげることができます。今年も800羽余りが滞在しています。北へ飛び立つにはまだ日にちがありますので、日頃の疲れを癒しに来ませんか。

S . T



## — クラブ活動の紹介 —

両沼農村青年クラブ 会長 加藤 康明

当クラブの活動地域は会津盆地の南西部に位置しています。清冽な水に恵まれていることや、気温日較差の大きい気象条件などの特性を生かし、全国有数の良質米産地となっています。



プロジェクト学習風景  
有機栽培米

クラブ員は、稲作を主にソバや小麦、大豆などの転作作物、果樹（柿（会津身不知）、リンゴ、モモ）や野菜（夏秋キュウリ、アスパラガス）、花き（トルコキキョウ、ストック、キク）などの園芸作物、さらには原木椎茸などにも取り組み、多様な経営を展開しています。

当クラブは、会員相互の連携と個々の資質向上を図るとともに、地域農業の振興に寄与することを目的に発足しました。

活動は、会員の農業技術や経営能力の向上を目指し、定例会（隔月開催）と研修、プロジェクト活動、各種イベントへの参加等を中心に、農業高校生の研修受入や、高校生に対する講演なども行っています。



研修風景

ここで、福島県青年農業者等育成センターからの助成金を使用した主な活動について紹介します。

当クラブで新品種の米「会津のかおり」を試験栽培した共同プロジェクトの栽培に係る肥料費等、茨城県つくばみらい市のクボタ筑波工場視察、個人プロジェクトの資格取得と先進地視察への助成を行うなど多方面に使用しており、会員の農業技術等の向上に大変役に立っております。



新品種の試食風景

編集後記 平成19年度も皆様のご協力をいただきまして、当公社の広報誌「あぐりサポートニュース」を計画のとおり3回発行することができました。原稿を寄せていただいた方をはじめ関係者に心から感謝を申し上げます。さて、3月は送別会シーズンで酒席に参加することが多くなると思っています。お酒には気分を高揚させてくれたり、コミュニケーションを円滑にしてくれたり、あるいは

は嫌なことを忘れさせてくれたり……。しかし、何事もほどほどが肝要なのが世の常で、お酒とて例外ではありません。 S . M

お問い合わせ

あて先 〒960-8681  
福島市中町8番2号 福島県自治会館8F  
財団法人福島県農業振興公社 総務課  
TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277  
URL <http://www.fnk.or.jp>